

## 福島県総合計画の進行管理について（案）

### 1 新しい総合計画における進行管理について

ふくしま新生プラン（2013～2020）における進行管理は、政策分野別施策評価調書により「施策の達成状況」を審議会に諮りながら、点検・評価を実施してきました。施策に紐付く事業を選別し、施策毎の課題分析がなされました。

新しい総合計画（2022～2030）においては、新たに政策体系が整理された状況を捉まえて、政策評価及び施策評価を一連のものとして実施します。政策を推進する施策の成果や課題などを総括、分析するなど、より大所高所から総合計画の進捗状況等を把握してまいります。

### 2 進行管理の目的

新しい総合計画を着実に推進するため、PDCA サイクルの一環として政策の進捗状況について評価を行い、課題を明確化し、次年度以降の事業構築に繋がります。

また、政策の進捗状況を、全国における本県の立ち位置及び経年変化とともに数値で示し、現在の取組の成果について県民と共有します。

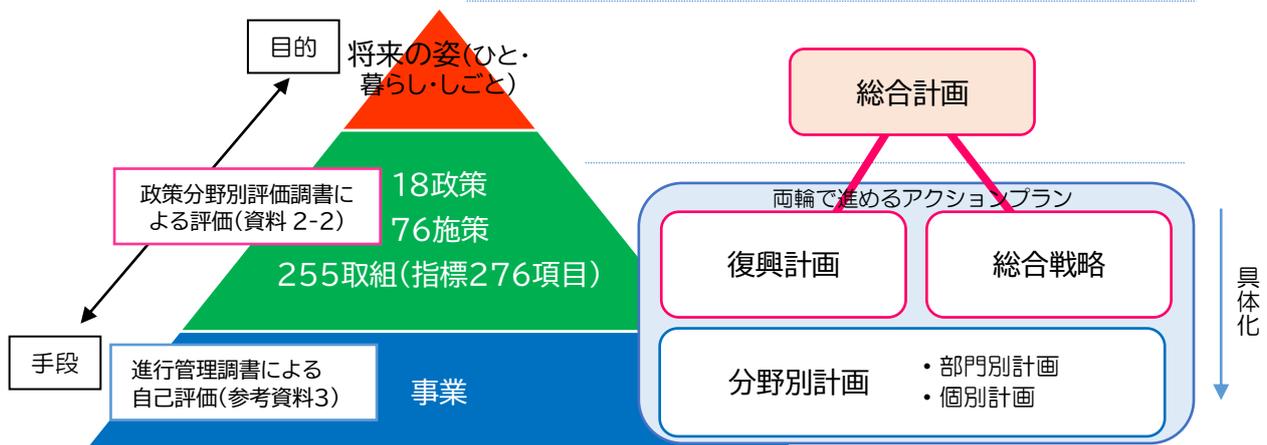
合わせて、職員一人一人が事業の「先の成果（目標）」、「根拠」、「成果」を重視した政策評価を通じて、意識改革と政策立案能力の強化を図ります。

### 3 基本的な枠組み

#### ○ 総合計画の体系に基づき政策評価を実施

総合計画の体系においては、将来の姿（ひと・暮らし・しごと）ごとに18政策、政策を推進する76施策、及び施策を構成する255の取組により構築されています。

政策評価は、政策という「目的」に対して、現状との乖離を分析し、大きな視点から総合計画の進捗状況を把握します。



## 4 評価の構成

### (1) 政策評価

- 政策を構成する施策の進捗状況、課題等と対応方針を検討します。  
(大きな視点から県政の状況の中長期的に分析)
- 時系列で目的の達成度の推移を観測するほか、全国の数値と比較します。
- 18の政策を単位として評価を実施します。
- 評価は、「順調に推移」「概ね順調に推移」「更なる取組が必要」「取組の一層の強化が必要」の4段階で政策に対する定性評価とします。
- 総合計画審議会の意見をいただき、最終的な評価結果を決定します。

### (2) 施策評価（復興計画、総合戦略の進行管理との連動）

- 施策の進捗状況の把握、施策を推進する上での課題等と対応方針を検討します。(主に評価対象年度の状況を短期的に分析)
  - ① 総合計画に掲げた指標（276項目）による分析
  - ② 「進行管理調書」による事業毎の自己評価を実施。
- 総合計画のアクションプランである復興計画、総合戦略の進行管理により、特に重点プロジェクトに対して個々の事業がどの程度有効であるかを評価します。(有効性分析)
- 総合計画に掲げる施策と親和性の高いプロジェクト、事業群を選別し、評価結果をまとめます。
  - ① 「進行管理調書」で記載された総合計画該当項目による分類毎に事業を一覧化する。
  - ② 調書に記載されたアウトプット指標、アウトカム指標による定量評価。
- 「施策」という、目的を実現するための手段である事業群の構成が妥当か評価します。(妥当性評価)

## 5 指標の取扱

### ○ 時間軸（短期・中長期的）による評価の検討

- ① 政策評価においては、中長期的な視点に立ち、単年度毎の実績値だけにとらわれることなく、最終的な目標値と現状とのギャップを確認し、分析します。
- ② 施策評価においては、復興計画・総合戦略の進行管理結果をもとに単年度毎に指標の達成度を評価、分析します。
- ③ 様々な社会情勢の変化等に合わせ、現状分析に資する「補完指標」については、必要に応じて追加を検討するなど指標の充実化を図ります。